

第4回地域力・つながり部会

日 時 平成21年1月19日（月）午後6時30分

場 所 川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

委員 6人

猪熊俊夫、吉野智佐雄、藍原晃、朴栄子、星川孝宜、宮崎とみ子

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の順守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者を紹介>

2 議 題

（1）実行計画について

部会長 前回の全体会議で、実行計画案についてほかの部会に所属する委員からも意見があった。それを踏まえ、より具体的に内容を詰めていきたい。

事務局から資料説明をお願いしたい。

事務局 <資料に沿って説明>

部会長 それぞれの解決策について事務局で検討した内容について、ご説明願いたい。

事務局 課題の1番目、「人づくり、世代のつながり」について。解決策の1番目「スポーツを通じた交流の実施」については、子ども、高齢者、障害者などが気軽に参加できるスポーツであるカローリングを通じて、地域の交流を図るという解決策。前回の全体会議で、用具をそろえるのに相当の費用がかかるのでお金持ちのスポーツなのではないかという意見があった。しかしスポーツで勝つことが目的ではなく、競技を通じていろいろな年齢層の人との交流を図ることができる1つの手段としてのものなので、その点を強調した。

用具については、予算が確定すれば区で3セット購入しようと考えている。また、それ以外にも他都市から借りるなどして、できるだけそろえて貸し出し等をしていきたい。

競技の指導、審判については、体育指導委員に務めていただくことを考えている。

また、町内会などを中心に30チーム程度の規模で、区長杯の大会を開催してはどうかと考えている。最初は少ないチームで、徐々に参加チームが増えていけばよいのではないかと考えている。

解決策の2番目「シニア世代の地域活動参加促進ツアーの開催」については、昨年は臨海部の先進企業の見学や東扇島東公園の見学等を行った。来年度はもう少し身近に、地域の魅力を発見・見学するツアーを実施してはどうか。また、地域の縁側、歴史ガイド協会、海風の森をMAZUつくる会など、川崎区内で活動している区民団体の活動を紹介し、その後に旧東海道等をウォーキングして、地域の魅力を説明していくような取り組みをしていきたいと考えている。

3番目の「『地域の縁側』の支援」。「地域の縁側」については、今後充実していくことが区地域福祉計画でもうたわれている。地域の縁側は場所によっていろいろな活動をしていて、地域のつながりに貢献しているため、区民会議としても設置や機能の充実を支援していくのが良いのではないかと。可能ならば町内会に新たな開設を促すなどの応援をしていただくことも考えている。

次に課題の2番目「防災訓練」関係。解決策の1番目「防災訓練（防災フェア）への外国人市民や障害者などの参加促進」については、大島4丁目の町会が来年度防災訓練を実施する予定なので、外国人市民に呼び掛けて参加していただく形を考えている。

2番目の「東扇島東公園防災施設の視察」については、区の協働推進事業でも予算を計上しているが、自主防災組織など地域の防災組織を対象に、東扇島東公園にある防災施設の視察や防災講演会を行う。7月から10月の間に実施していきたいと考えている。

次に課題の3番目「外国人市民対策」。解決策の1番目「外国人市民向けメルマガの配信」については、現在「かわさきくコミュニケーションボランティア」が取り組んでいるメルマガの配信を拡充していく。行政の情報は市政だよりから得ているということだが、それ以外にも外国人市民に必要な情報もあると考えられるため、区役所で外国人市民に役に立つ情報を集約し、「コミュニケーションボランティア」に提供していく。それを加入している外国人に配信する取り組みをしてはどうか。

解決策の2番目「外国人市民向け広報の充実、強化」について。現在区のホームページに外国人市民向けの情報を掲載しているが、これを充実させる。外国人市民にとっては、区役所の位置、支所の周辺図、区役所にはどのような課があってどのような事業をしているのかなどが分からないということなので、まずはそういった情報を掲載することを考えている。

また、現在区役所で行っている外国人市民向けの相談窓口の利用者が少ないということなので、PRのチラシを作って外国人登録の際に配付して周知していきたいと考えている。

部会長 前回までは課題は5つあったが、今回3つに絞っている。外れた2つの課題のうち、1つはシニアを対象にしたツアーとして「人づくり・世代のつながり」の課題の中に織り込まれ、もう1つの「情報発信」については、今後の課題という形で「受け皿と

なる団体の育成を目指す」こととしている。

何かお気づきの点はあるか。

委員 「地域の縁側」というのはどのようなものか。

事務局 各代表の方の家庭や町内会館などに地域の人が集まって、体操や小物作り、おしゃべりなどをする。会費を取るところも無料のところもあり、開催される頻度もそれぞれ違う。地域のコミュニケーションを図る場として取り組まれている。

委員 以前部会の中でミニギャラリーの充実という発言をしたが、そのイメージと非常に重なっている。渡田新町や上並木など、各町内で自主的にギャラリーをつくっている。そういうものが全町内にできればよいと思う。特定の個人の家へ行くというのは遠慮もあるし、続ける方も大変だ。

委員 カローリングの件だが、ことしは各地区に1回ずつ道具を貸して練習してもらってはどうか。小学校の体育館を借りて、子どもや大人を集めて練習させる。始めから川崎区で大会をやるといっても大変なので、地区に分けてやったほうがよいと思う。例えば大島地区で預ければ、地区内の8町内を集めて、皆さんに順番に練習させることができる。大変おもしろい競技なのだから、最初から区長杯などと考えないで、子どもも大人も遊ばせてしまえばいい。1回遊ばせて、楽しいな、おもしろいなという雰囲気を与えてやるのが良い。

区長 チーム編成はどう考えたらいいか。3人のチームなので、成人3人にするか、あるいはお年寄りや子どもを入れた3人にするか。

委員 子どもは子ども、大人は大人でやったほうが良いと思うが、力が必要な競技ではないので、子どもと大人を混ぜてもできる。

委員 町会別に体育指導委員がいるが、既にカローリングのルールなどの指導は受けているのか。

委員 去年も一昨年も受けている。

委員 前回の全体会議でビデオを見たときに、床に的の絵が描いてあったが、例えば各地区で練習するときは、体育館に描く必要があるのか。

委員 的の絵が描いてあるシートがあって、それを張ればよい。

委員 まずは町内会の中で、カローリングのことを知らない人に教えることが必要だと思う。例えばゴルフでも、練習場で練習を積んでいってうまくなって、初めてコースへ行こうか、コンペへ出ようかと考える。初めは難しく考えないで、できない人もできる人も集めて練習させるのが第一歩ではないか。その中で、仲の良い3人ずつでグループを組んで競技をし、そこから大きな大会に参加していくようになると思う。

委員 世代を超えて、何世代かが一緒になって遊ぶということを目的とするならば、練習場所があってもいい。例えばこども文化センターに体育指導委員に来てもらって、少し練習するようなこともよいのでは。カローリングを広めるためには、まず見て、触れて、実際に練習をできる場所を提供、設置する必要がある。

部会長 前回の全体会議でカローリングのビデオを流したら、みんな集中して見ていた。数が限られているので練習会でも開かないと現物は見られないが、各町会の定例会などでビデオを見てもらうと、理解度が高まり事前のPRになるのではないかな。

委員 私も面白そうだと思う。実行計画案の「誰が」という項目には町内会、体育指導委員、区役所と書いてあるが、もっと具体的に普及プロジェクトのような形で進めたほうがうまくいくと思う。普及の方法を考える団体がないと、せっかく高いお金を出して買ってもうまくいかない。まずはどのように普及していくか、使いたいときはどこに連絡すればいいかなどのプロジェクトをつくることを考える必要があると思う。そういう意味で、先ほど出たこども文化センターで練習するという話は面白いと思った。

部会長 より具体化するには当然そういった部隊、チームが必要だ。

事務局 現在予算要求中で、正式には2月中旬の議会で決定されること。予算として固まった段階で、カローリングの普及や地域での利用方法などについて、所管している地域振興課などと調整し、本格的に区役所内部で詰めていきたい。まだ1年目のことなので、徐々に普及していくということでご理解いただきたい。

委員 予算が固まった段階で具体的に詰めていくということで、やることについては良いのではないかな。

部会長 このようなまとめ方でよいか。

各委員 異議なし

部会長 ほかの項目についてはどうか。歴史ガイド協会の協力を得て東海道をウォーキングしようという項目が新たに加わったが、それについてはどうか。

委員 旧東海道を歩くことは、本当に大切なことだと思うが、ただ歩いて説明を聞くだけでは、印象が薄くてもったいないと思う。具体的なもう1つの肉づけが必要ではないか。例えば参加者に写真を撮らせて、その写真展をやる。そうすれば、また違ったシニア世代にとっての目標ができる。デジカメを使うためにコンピューターにも興味を持つなどということにつながっていくと思う。

委員 確かに、ウォーキングの中に味の素見学などの趣向の違ったものを入れると反応が全然違う。ただ、表に出ることに何ら抵抗を感じない人もいる一方で、サラリーマンというのは、どちらかという会社一途で、近所の人とも余りかかわりがないという人が多い。大体は奥さんに引きずられて出てくることが多く、男一人でなかなか出て来ない。だから、シニア世代にとっては、写真を撮る旅行だというような制限を与えると、参加がずっと減ってしまうと思う。奈良茶飯を食べるなど、万人に共通する目的を入れたほうが良い。確かに写真のコンテストをやるとなると写真好きの人は歴史に興味がなくとも来るかもしれないので、貴重なご意見だと思うが、一気に採り入れずに、少しずつ加えていくと良いと思う。

委員 以前カラオケ教室をやったことがある。良い先生がいたので来てもらっていたところ、30人から40人ぐらいのサークルになったのだが、その先生が亡くなってしまった。それでもサークルのメンバーは新年会をやったり、発表会をしたりなどして、いまだに続いている。こういった趣味によってつながりができると、自然に素晴らしい集まりになっていくと思う。

区長 奈良茶飯については、検討をお願いしたい。ウォーキングプラス、川崎中央商店街連合会で食べるなど、そういった組み合わせもあり得ると思う。そこで見てきた、聞いてきたことをわいわい話す、ということも考えられる。

委員 サラリーマンの男の人を引っ張り出してくるのは意外に難しい。今シニアはたくさんいるのに、消防団はどんどん人数が減ってしまっている。サラリーマンをやっていた

人は人見知りか、激しいのか。

委員 シニアになったときに、夫婦でやる趣味は大事だと思う。カラオケ教室でも、5～6人でも集まって夫婦で歌おうというのが始まりだった。カローリングでもそういうことが言えると思う。

委員 我々歴史ガイド協会で企画ガイドをやると、参加者は大体二人連れだ。女性5～6人の団体はあるが、男5～6人というのは余りない。奥さんと一緒に来る傾向がある。夫婦で参加できるものは出やすいし、集めやすいかもしれない。

昨年10月から2カ月間、延べ10回のガイド養成講座を開催した。30人募集に対して20人集まれば良いほうだと話していたが、結局40人募集があった。全員受講していただいた結果、その後ガイド協会に入りたいという人が10人申し込んできた。意外に社会活動をしたいと思っている人は多いが、照れ臭いとか人見知りするなどで二の足を踏んでいる人が、特に男性には多いのではないかと。

部会長 シニア世代、特にサラリーマンの男性が、地域で活躍する場をなかなか見つけられない状況があるので、ガイド協会や地域の縁側、カメラのサークルなどの地域活動を発表する場をつくる必要があるのではないかと。

外国人、障害者を含めた防災訓練をするという件では、大島4丁目で防災フェアを開催するということだが、具体的にはどのようにお考えか。

委員 まだはっきりとは決まっていないが、1つの町内会でやるよりも大島地区連合町内会で行う方が良いと思っている。大島地区では各町内会が個別の活動をしているが、炊き出しや心肺蘇生などの訓練はどこでもやっているのだから、例えばテントの中で煙の体験をしたり、ジャッキで物を持ち上げる訓練などをすると良いと思う。また公衆浴場から古い材木を借りてきて、校庭の隅に瓦れきを作り、そこから人に見立てた人形を救出する訓練をしても良い。そういった訓練も以前やったことがある。

委員 一ついいか。公園に防災グッズを入れている倉庫があるが、中に何が入っているかの表示が全くない。

委員 中には食料、テント、毛布、バケツ、スコップ、はしご、その他災害時に必要なものが入っている。自主防災組織でそういった物を購入する際に、半分程度の補助金が出る。それを利用して道具をそろえている。但し施錠してあり、鍵は町内会で持っている。

委員 町内に住んでいる人はそういうことを知っているのか。何人かに聞いたが、知らないという答えだった。

委員 A4の紙1枚程度で、こういうものが入っているというリストはある。

委員 地域の人づくりという話とは外れるかもしれないが、阪神大震災のような大きな災害があった場合、町内会レベルの話ではない。たまたま通りかかった人が、防災倉庫を利用することにもなると思う。もっと広く、いざというときには誰でも使えるようにしておく方がよい。せめて中に何が入っているか位は表示しておいてはどうか。

また、避難場所も1カ所だとそこへ行かれない人が出てくるので、2～3カ所あった方がよい。

委員 鍵を掛けず、この中にこういうものが入っていると書いておくと、盗まれてしまうのではないか。やはり鍵は掛ける必要がある。私の町内では三役と各部の部長が合鍵を持っているので、災害時に地域にいない人がいても、倉庫は開けられるようになっている。

災害時には、まずは地域で対処しなければならない。職員は歩いて来なければならないのだから、役所が動き出すには時間がかかる。閉庁時間中は、防災センターに何人かいるぐらいだ。役所は当てにならないということで、ある程度のものは備蓄しておく必要がある。

委員 趣旨はわかるが、中に入っているものはみんな周知していないとまずいと思う。

委員 町内の人全員が知っているわけではないが、町内会の役員は毎年入れかわっていくので、大体わかっていると思う。

委員 我々のグループは防災フェアをこれまで2年間やっている。いつも危機管理室に出前講座をしてもらっているが、漢字の分かる人向けなので外国人には分かりにくい。そこで、我々が2年間やった経験と危機管理室のノウハウ合わせながら、外国人向けのパネルを作っている。また、インターネットで調べていると、阪神大震災の経験で外国人向けの説明ボードがたくさんできているようだ。

今回3回目を一緒にやるに当たって、そういうものも活用したい。また、障害のある人、車いすの人たちは動きが全然違うと思うので、そういったところも配慮できたらと思う。

委員 私も、自分の区域にある学校の校長と話し合いを進めている。先日も校長先生会って、学校の授業の一環として取り組む防災訓練について相談した。そういった訓練を行って、手の空いている人がそこに参加するということになれば、そこから輪が広がるのではないか。学校に設置する簡易トイレにしても、初めて見るものではないということにしておけば、災害時に取り掛かりやすい。そんな話もしてきた。

委員 今、危機管理室では外国人のことを視野に入れたいろいろなものを作っている。ただ危機管理室の職員がまず言うのは、どんなに用意したものでも実際に災害が起きたときには使えないかもしれないので、普段から隣近所の人と仲良くしておいてくださいということだった。地域の中で、言葉がわからなくてもボディランゲージなりで仲良くできる人をつくっておいてくださいと言われたときに、今それがなくて大変困っているのだと思った。

そういう意味で、地域のつながりという中で、言葉のわからない人同士がつながっていくことも本当に大事だと思っている。だから今回のように防災フェアを町会と一緒にやってくれることで、地域に外国人がどれくらい住んでいるかということがわかる。実はたくさん住んでいるのに、普段まちなかではわからない。姿を見せることでつながりを持っていける、防災フェアがそういったことにつながっていくと良いと思う。

区長 カローリングもそのための一つの方法になり得る。

委員 差別の話になってしまうかもしれないが、青い目の人はすぐ外国人とわかっても、中国や韓国の方は、話でもしない限り隣にいてもわからない。川崎区は20%が外国人だというが、私の知っている範囲では、そんなにいるかと思う。だから、もっとカローリングでも何でも、余り意識をしないで出てくるのが大事だと思う。

委員 差別感からではなく、また日本人が怖いからでもなく、言葉がわからない、習慣がわからないという部分で引っ込み思案なのだと思う。言葉がわからないことで行動範囲は本当に狭められているので、それを技術的にクリアできれば、とっても明るい方たちがたくさんいる。付き合っていると本当に面白い。そういった障壁を越えられれば、交流の仕方も変わってくると思う。

区長 外国人だからという前に、時代的に隣とのつき合いが少なくなっているということもある。

委員 昔と違って、近所で立ち話をする光景が非常に少なくなっていると思う。各々の家

庭が忙しくて、そういう時間はないのかもしれないが。近所でも、話をしたことない人がいる。

委員 実行計画案にも「「地域の縁側」の支援」とあるが、これは区内中に広めていきたいと思う。核家族化により、お年寄りが一人で亡くなっていたというニュースをよく見かけるが、ああいう状態にしてはいけない。少人数でも集まることで、せめてあいさつだけでもできる関係を作っていければと思っている。

委員 本当に、おはようございますと言ってにこっと笑うところから次に進むということはある。

部会長 防災フェアの件で、障害をお持ちの方に参加していただくよう声掛けをするという話だが、個人が参加するのか、団体に参加を促すことになるのか。

事務局 災害弱者に関する要援護者制度ができた趣旨からすると、町内にいる個々の障害をお持ちの方に声かけをしていただくのが良いのではないか。団体に声掛けをすると、相当大がかりになってしまう。

委員 外国人と同じく障害者にとっても、一緒に参加しましょうと呼び掛けてもなかなか出にくいと思う。大島地区には以前は大島授産所と言っていた市の施設や、作業所などが結構あるので、施設に対して呼びかけをしてはどうか。地区は違うが、田島養護学校もある。

区長 区内にある施設全てというわけにはいかないので、会場となる大島地区のものになるか。モデル的に1箇所声掛けするというだけでも、形になると思う。

部会長 実行計画案の外国人市民に関する解決策で、市民向けメルマガの配信や広報の充実、強化が挙げられている。市内に区民会議が7つある中で、外国人に焦点を当てているのは、恐らくこの川崎区だけだと思う。このあたりについて、ご意見はあるか。

委員 これらは少しずつやりつつあることなので、外国人に向けて発信する情報の収集方法が体系的になっていくと、もっと利用しやすくなると思っている。来年度からいろいろな人たちにチラシを配っていきたいと考えている。どこの町会で何がある、どこに行ったらこんなお祭りをやっている、ということを伝えることによって、外国人が外に出ていきやすくなれば良いと思う。今は情報がないので、どこも行かない。

区長 外国人向けメルマガについて、韓国語がないが、これは何か方法はあるのか。

委員 携帯電話に韓国の文字が入らない。そこだけクリアできれば配信は可能。名古屋だったかの大学が研究して試験的に行っているのだが、日本語でメールを打つと、韓国語で携帯電話に戻ってくる。できないわけではないようなので、携帯電話やパソコンに強い人材がいれば可能だと思う。

別の方法としては、韓国語も英語表記ができる。また一つの方法として、韓国語を片仮名で書いてみる。どちらも試してみたのだが、全然わからないということだった。それよりもやさしい日本語のほうが良いと。

また、実はスペイン語とポルトガル語も、実際のスペイン語とポルトガル語の文字を使っていない。アルファベットを利用しているので、表示できない文字は使わないようにしている。中国語も、中国の漢字は出てこないのので、日本の漢字で表記している。携帯電話の中にある機能を使って、アルファベットと漢字を使って作っているという状態。技術者がいれば、もっとできると思う。パソコンのほうが楽だが、外国人は持っていないことのほうが多い。携帯電話なら持っているのので、情報源としては良いだろう。

部会長 外国人市民にアンケートを取ったときに、川崎区は住みやすいという答えが返ってくるようなまちづくりができるといいと思う。ほかの区には住めない、これだけサービスが違う、と。

委員 川崎区には通訳・翻訳バンクという、子育てにかかわる機関が利用できるシステムがある。ほかの区にはないので、これを経験した施設の人が他区に異動した際に、使えないですかと電話をしてきたこともある。通訳を通して市民の声を直接聞くことができるのは、役所にとっても良いこと。学校は頻繁に使ってくれていて、先生が子どもについて保護者と話すのに、やはり通訳があったほうが良い。とても良いと評価する声を聞いている。

委員 日本人もハングルの1つや2つ、あいさつ用語を覚えてもいい。市の観光協会連合会に韓国の方がいたことがあって、観光案内所で、こんにちは、さようなら、ありがとうぐらいをハングルでしゃべれば、雰囲気は全然違うと言っていたので、我々も同じようにやった。スペイン語、ポルトガル語、中国語なども、日本人も少し覚えてらどうか。それこそ行政の窓口には必要なのではないか。そうすれば安心して行くことができる。

委員 自分が読める文字があると、とても安心感を持つそうだ。漢字ばかりでは記号にしか見えないので、そこに自分の知っている文字が出てくるのはうれしい。それが書いてある場所ならば、我々のことを知ってくれているのだと思えて、とても良いのではないか。

部会長 バンコクでは、行政の窓口が言葉によって分かれているというニュースを見たことがある。そうすると、住んでいる人にとって非常に近くなる。みんな市民なのだからという捉え方だと思う。

委員 今は、どの学校にも日本語を話さない子どもが必ずいる時代になってきた。ふれあい館はこども文化センターにもなっているので、日本語が分からない子どもが新しく入ってくると、周りの子が連れてきてくれる。とりあえずはあいさつの言葉だけでも覚えると、それだけで毎日来てくれるようになる。子どもも大人も、たった一言でも自分の言葉が使ってもらえるということが、とてもうれしいことなのだと思う。

部会長 ほかに何かご意見はあるか。

委員 資料の後ろに「その他の意見」として掲げられているものの扱いはどうなるのか。

区長 実行計画に掲載されているものは、21年度4月以降具体的に準備を始めるもの。「その他の意見」については、引き続き情報を集めて検討を進める項目として理解している。

委員 ぜひそのようにしてほしい。情報発信の関係は、川崎区は少し遅れているような気がしてならない。

部会長 一通りご意見を出したようなので、地域力・つながり部会としては、この内容で第3回全体会議に提案することによいか。

各委員 異議なし

(2) その他

事務局 第3回全体会議を2月17日に大師支所で行う前に、参与と区民会議委員による意見交換会を開催する。委員から提案のあったもので、区民会議の活性化をテーマに自由にディスカッションすることになる予定。

3 閉 会

事務局 <全体会議の日程、区ホームページでの会議録公開、市政だより川崎区版への記事掲載を説明>

午後 8時 1分 閉 会